

～ひだまり～

3年1組 学級目標

サティーン

31 “N” ICE クリーム

～認め合う 35人の味～

第3学年だより

第31号

作文特集号「修学旅行記」～1組～

それぞれの思いが込められた作文を紹介しています、今週の学年だより。折り返しも過ぎ、今回は1組の作品をご紹介します。

今回の修学旅行は「探究学習」の集大成、といった要素も多分にありました。生徒達を取り巻く状況もどんどん便利になり、ワンクリックで何でも調べられてしまうこの時代。AIがますます台頭してくるであろうこの先にも生きる力とは何なのか、実際に現地に赴き、五感で味わう意味は何なのか、生徒なりに考えて行動してくれたことと思います。少しでもその様子が伝われば幸いです。

「京都と東京の違い」

私は修学旅行を通して、京都と東京の違いについて、深く考えました。

京都と東京の最初の違いは、やはり景観です。昔の建物や文化が残った、町全体が博物館のようでした。東京の近未来的な景観とは真反対な、心を休められるような場所でした。また、自然が多く、空気、においなども東京とは違いました。

次の違いは、人です。人、と言うと分かりづらいですが、京都の方々は愛想がよく、ノリが良かったと感じました。なぜそう思ったのかと言うと、運転手さんやインタビューをした現地の方々と触れ合って、そこに東京との違いを感じたからです。実際、インタビューをするとき、最初は緊張しましたが、どの人も冗談を言ってくれたり、場の空気を明るくしてくれたりする人が多かったです。

京都と東京、同じ日本という国の中で、ここまでの違いがあることに、私は驚きました。逆に言えば、同じ国、地域でも様々な違いが生まれるということです。

これから高校生となり、今よりもっと広い範囲の人たちと関わることになります。京都と東京のように真反対の人もいるかもしれません。ですが、その中からでも、良いところ、自分が学ばなければならない姿を見つけ出す必要があると思います。

修学旅行を通して、私は、違いを受け入れ、良いところを学ぶことの大切さを感じました。

裏面にも、もう一作品掲載してあります。そちらもどうぞお読みください。

「集大成を終えて」

僕は、修学旅行という3年間の集大成の場で、3つのことを学びました。

まずは、自分なりに大成功の修学旅行にできた、ということです。クラス別や班ごとの行動でのまとまりも非常によく、京都・奈良の歴史に直接触れ、色々な事を知り、たくさん学ぶことができました。

そして、ネットで調べたり AI に聞いたりしても出てこないようなものを学びました。それは、他の集団では同じ感想は出てこない、ということです。瑞江三中の、この緑学年だったからこそ、この修学旅行が成り立ったのだと思いました。

次に学んだことは、京都や奈良は意外にも身近な場所だった、ということです。どういうことかと言うと、僕は新幹線に乗った経験がなく、あんなにも早く関東から関西まで行けたことに驚きました。違う地域でも、同じ国であるから日本語は通じるけど、文化や性格の傾向が全く異なること、自分のもっていた先入観とは全くの別物だったということ。どれも当たり前のことだとは思いますが、僕にとってはとても貴重で、一生に残る自分史になると思います。そして、この3年間の集大成を、これからの人生にも生かしていきたいです。

最後に、僕が AI に聞いても出てこないと思ったものは、自分の目で見た重要な文化、国宝などです。目の前に千年前のものが残り、災害に耐え、日本の歴史に大きく関わったものを見て、本当に「すごい」としか言葉に表せませんでした。これからも、AI や他の人にはできない、自分だけの経験をしたいです。

1年生の鎌倉、2年生のみなかみや都内巡り、これらを合わせた3年生の修学旅行は、かけがえのない思い出となりました。

【担任の先生から】

「AI に負けるな！」これは、修学旅行の準備をする君たちを見ていて、ふと頭に浮かんできた気持ちです。もうすぐ君たちは、次のステージへと羽ばたいていくわけで。ギュギュッと凝縮したら、あと…4か月？くらいしか同じ時間を過ごせません。泣いても笑ってもね。この瑞江三中の全員が、どこに行っても活躍できる素敵な人になるために、先生にできることは何だろうかと、日々考えています。

今はAI の時代。「修学旅行ってどんなイベント？」って聞いたら、きっと、楽しいことも大変なことも、よくあるトラブルも、その乗り越え方も、ゼーンぶ教えてくれる。「京都」や「奈良」を知りたいければ、画像は無限に出てくるし、説明だって何万字も読めるし、地図上を自由に歩き回ることもできる。感想文だって考えてくれる。じゃあ、実際に行く意味って、なんだろう。そこに、自分なりの“答え”を見出してほしいな、と思いながら、一緒に準備をしてきました。どうでしたか。答え、見つかりましたか。事後学習でも、その答えが、何種類も味わえるのが、今から楽しみです！！